

## 地域という枠組みでの家族支援

佐々木 瑞穂 (青森県つがる市役所)

保健師として働き始めた当初は同年代の友人から「保健師って何するの」とよく質問され、簡単に公衆衛生（看護）の目的にそって「人々の健康の維持向上」と答えていた。現在では、出産後や気になることがあれば訪問し、保育所や学校では食育や性を語り、乳幼児でも大人でも健診の場で会い、あちこちで健康を語り続け、イベント会場ではお揃いエプロンのご婦人達とヘルシーと銘打ったお菓子を配り等、市内のあちこちに出没しているといわれる。

私は行政を活動の場としており、それらの活動は地域や生活する全ての住民へ向けたサービスである。保健師が提供するサービスは予防活動を中心としており、住民の、そして地域全体の健康レベル、ひいては QOL の向上を目指すものである。簡単にいうと、元気で楽しく“つがる市”で暮らしてもらえれば幸いなのである。

下記の事例は、未熟な私が保健師として考えさせられた事例である。このような事例を目の前にした時、皆様ならどう考え、どのような行動に移されますか？

問1 住民健診で空腹時血糖が毎年 130mg/dl 超えているリンゴ農家の壮年期男性。「食べ物には気をつけているし、農作業で運動している」といつも語り、予防への新たな行動変容がみられないまま数年が経過。結果説明会には参加するが、保健事業等には不参加。

問2 数年間、眠れないと訴え続ける7人家族の80歳代女性。「楽しみは草取りだけ」と語る。嫁は「年寄りなのにししゃばりで」と女性のことをこぼしている。

問3 感情の波が激しく、精神的に不安定で自傷行為のある母親。子育てが困難になる時も多く、その時は同居の姑が交代する。姑は、温厚で孫の面倒をよく見ており、孫もなついている。

話をしても行動を変える気がない人は諦めますか？ 嫁姑問題には関知しませんか？ 頼れる家族がいるなら子育てはお任せしますか？

保健師の行う活動は、家族を単位にするとと言われるのはなぜだろうか。「家族が何らかの健康問題を発生させ、また、家族が健康問題の改善や解決に必要」とは地域ではどういうことなのだろうか。家族に受け入れてもらうには何が必要なのか。

当日は、家族を単位とすることの重要性や地域において家族と共に歩くことの意味について、上記事例や当市の取り組みとともに私見を述べていきたい。